令和3年度 第2回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時:令和3年 11 月 19 日 16:30～17:30

出席者(敬称略) 協議会委員 山﨑 彰、 三木 俊博、 田村 知子、 浅田 勝利、 後藤 淳

校 長 平野 裕一

事 務 局 藤縄 真敬、 松本 恵美子、 安福 一貴、 城台 祐樹

次 第

1 校長挨拶 平野校長

・行事関係、前半は体育大会・文化祭が普通にできなかった。その分、を補填するイベントを行った。

・新学習指導要領に向けて、授業改善を進め公開授業大会を実施。3観点の観点別学習評価については、目途はつきつつある。

・一人一台端末について 活用スタート。

・年度末にむけて 新転任の教員がスムーズに豊中高校の仕事になじむための「豊高スタンダード」を作成中。

2 会長挨拶 山﨑会長

生徒に寄り添った教育が求められている。こういった機会がありがたい。忌憚なき意見を。

(新 PTA 会長挨拶) 後藤会長

・こういった形で母校に帰って来られて嬉しい。コロナ禍でもできる限りイベントを実現しようという方針がありがたい。

3 協議・報告 協議委員・事務局

(1) 7月 20 日(火)実施 公開授業大会・生徒課題研究発表会 報告

(事務局)公開授業のアンケート結果。豊中高校教員の回答は、授業に関しては肯定的回答 9 割。研究協議は 8 割。パネルディスカッションは 7 割。外部参加者は、授業に関しては肯定的回答 10 割、研究協議 9 割、パネルディスカッションは 8 割ほど。授業見学の満足度は内外問わずに高く、「活動にのみ焦点を当てたアクティブラーニング」を乗り越える工夫(知識・技能もきちんと習得できるアクティブラーニング)の必要性をほとんどの教員が感じていた。研究協議やパネルディスカッションに関しては、Zoom による音響の問題や、時間の少なさが影響した。次回以降気をつけたい。

(委員)ビデオを見る限り音も聞き取りづらかった(コロナ対策の影響)。ディスカッションを含めると1時間では足りない。

(校長)進学校でこういう取り組みをしているのが予想外だったという意見をもらった。

(会長)随分前から完全反転学習している学校も。英語だけでなく数学も。アクティブラーニングはやっただけで満足しがち。豊中高校の考え方に共感。

(委員)反転授業で個別最適化ができる

（委員）（反転授業で使用する動画は）生徒はみているのか？

（事務局）視聴回数を見ている限り、受講者数の数は超えている。

（会長）YouTube は視聴回数・分析ができる。

⑵　豊高教員スタンダードの策定について

（事務局）担任を一周した教員を対象にアンケートを取り、学年がかかわる分掌の仕方の整理、アドバイスなどをまとめた。今後、ヒアリングをしてもう少し深めていく

（委員）担任が見通しをもてるのでいい。見える化で働き方改革にも繋げられるのでは。（ＩＣＴやアウトソーシングなど）

（事務局）今は作業段階。次の学年で実際に試して、そのへんも含めて考えていく

（委員）見える化されていてとてもいい。働き方改革も実際に見えるとすすめやすい。

（校長）他校との学校文化の違いがわりとある。それがうちの弱みでもあるため、こういったもので対応

（事務局）特に経験年数の浅い先生を対象に考えている。意見は年齢問わず色んな先生からいただく。

（会長）初任や転任者に、育てたい子ども像など、教育目標や理念を共有することが前提。

（委員）（こういったものがあれば）コロナが終わったあとに、コロナ前に行っていた取り組みもできる

（委員）スタンダードは今後進化することも大切。

（委員）働き方改革などでクラブ顧問が減っている実情。クラブの顧問のことも見える化できれば。スタンダードに盛り込めれば。

⑶　生徒1人1台端末の整備状況について

（事務局）端末1070台。初期設定、使い方ガイドブック作成。教員への研修も行った。

※ここで、授業での活用の様子を動画で視聴（クロームブックの活用の様子　物理＋課題研究）

（委員）教科書はすべて電子化？

（事務局）すべてではない。本も持っている。電波が届かない教室があるのが課題。少しずつ活用場面が増えている。

（委員）インターネットで遊ぶ生徒は？

（事務局）教員支援ツールで生徒の画面をチェックできる。

（会長）端末の故障や忘れなどの対応は？

（事務局）保証対象になっている。予備端末もある。

（委員）支援員は？

（事務局）いるが、教員の情報 PT が優秀。初期は活躍してもらった。

（校長）その教員の仕事量も、働き方改革の観点で考えていく必要あり。

（委員）子どもにメール等をできるようにしている？

（事務局） 今のところ、学校間でのやりとりしかできないようにしている。

（委員）セキュリティーは？

（事務局）クロームのセキュリティー

(4) その他 （個別最適化とICT 活用について）

（校長）個別最適な学びの支援について、ICT でのイメージが難しい。到達度の違う生徒一人ひとりに対してそれぞれの教材を用意するのか、それとも興味の幅を広げる支援としての個別最適化なのか。

（委員）議論がわかれるところ。経産省は前者、文科省は後者が多い。ただ、後者（興味の幅を広げるという観点での個別最適化）の方が現実的。

（会長）前者（到達度の違う生徒一人ひとりへの教材を用意）の対応は難しい。

（校長）興味の幅を広げ、外部へアクセスしたりすることなどを「学びに向かう」力として評価できないか

（会長）そういった取り組みをしている学校も増えている。ただ、親の立場にしたら、大学受験も大切。大学受験とのニーズとの兼ね合いも考え、ひとつに偏らずに。

（校長）豊高型アクティブラーニングはその実現をめざしている。

（委員）めざす生徒像に合わせ、学校ごとに独自の個別最適化を定義すればいいのでは。

次回　令和４年２月 24 日（木）　１６時３０分　予定